



題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 5円
(購送料は年会費に含む)
発行人
〒010-0001
秋田市中通4丁目3-23
秋 田 県 消 防 協 会
会 長 中 泉 松 之 助
電 話 018-832-3791
FAX 018-834-2706

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電 話 018-862-8760

第五十八回 秋田県消防大会が開かれる

― 大仙市を会場に千人を超える参加者 第一回消防団員による意見発表会が行われる ―



中泉秋田県消防協会長のあいさつ

平成十七年七月八日大仙市大曲市民会館を会場に第五十八回秋田県消防大会が行われました。奥山利八副会長の開会のことばに始まり、殉職された消防職団員の御霊に対し参加者全員により黙祷を捧げた後国家斉唱を行いました。中泉松之助会長のあいさつでは、「合併により市町村数は少なくなりますが、消防団組織の位置づけに違いが見えるものの地域住民が安心して暮らせるための消防活動が行えることが一番必要である」と述べられました。開催地の大仙市消防団副団長一団長様と大仙市の栗林次美市長様か



優良事業所への知事表彰

ら歓迎のあいさつをいただきました。来賓で御出席の秋田県知事代理品田稔出納長様、財団法人日本消防協会代理秋本敏文理事長様、秋田県議会議長辻久男様から祝辞をいただきました。また、壇上におられました来賓の方々をご紹介します。消防庁長官林省吾様のメッセージをご紹介します。同時に、祝電をいただいた方をご紹介します。秋田県知事は、平成十七年度消防功労者(優良事業所)として小坂町の「秋田リサイクル・アンド・フラインパック株式会社」

平成十七年度全国統一防火標語
『あなたです 火のあるくらしの 見はり役』

代表取締役専務取締役天野邦彦様、五城目町の「菊地合板木工株式会社」代表取締役社長菊地成一様、男鹿市の「秋田県漁業協働組合北浦総括所」北浦総括支所長細川寿美雄様、美郷町の「株式会社沢野建設」代表取締役沢野一男様、湯沢市の「寛文五年堂」代表取締役社長佐藤君三様の五事業所の方々を表彰されました。



秋本敏文日本消防協会理事長の講演

前年度大会における九件の処理報告を行ったあと、本年度から行うことになった消防団員意見発表会では九支部の代表者になった団長、副団長、副分団長、班長、団員による発表があり、それぞれの体験に基づくもの等の意見が多く、参加者から大好評を得ることが出来ました。また、日本消防協会秋本敏文理事長を講師に招き講演をお願いしたところ、意見発表者の好評おりま



国歌斉唱

ぜ、そして高い視点での講話を拝聴することができ、消防職団幹部の皆様から大変喜んでいただきました。大仙市仙北郡支部の永井久雄支部長は「全国花火競技大会で名高い大仙市大曲に消防幹部が一同に会し、本大会を通じ、今後の消防活動のあるべき姿や、消防人としての役割を再認識できたことは大変有意義でありました。私達は相互の連携と団結の輪を広げ、地域住民の安心・安全な暮らしの確保を目指し、消防人としての使命達成に邁進することをここに宣言する」と声高らかに大会宣言を述べられました。秋田県消防の歌「われら・あり」の斉唱のち、来年度の大会開催地である大館北秋田市支部の斎藤博臣支部長から招へいのことばを述べられました。最後に、秋田県議会議務企画委員長武田英文様が声高らかに万歳三唱を行ない、中田潤副会長の開会の言葉で閉じました。



第34回消防救助技術秋田県大会

ロープブリッジ渡過



ロープブリッジ渡過

3	2	1	6	5	4	3	2	1	順位	団体種目
大曲仙北広域	大曲仙北広域	大曲仙北広域	大曲仙北広域	大曲仙北広域	湯沢雄勝広域	横手平鹿	秋田市	秋田市	消防本部名	ほうふく救出15組出場
木元智昭チーム	熊谷健太郎チーム	鈴木一伊チーム	小田秀成チーム	浅野直希チーム	石橋祐輔チーム	藤島城子チーム	吹谷謙和	佐藤崇弘	氏名・チーム名	
3	2	1	6	5	4	3	2	1	順位	個人種目
大曲仙北広域	大曲仙北広域	大曲仙北広域	北秋田地区	北秋田地区	湯沢雄勝広域	鹿角広域行政	鹿角広域行政	二ツ井麻里地区	消防本部名	はしご登はん31組出場
成田 達人	中島 美彰	三浦 寛幸	堀内 幸大	斎藤 智	大友 弘幸	高畑 政弘	小川 潤	佐藤 崇弘	氏名・チーム名	



ロープ登はん



ロープ応用登はん

3	2	1	順位	引揚救助9組出場
能代地区	能代地区	能代地区	消防本部名	氏名・チーム名
武田匡史チーム	三浦祐樹チーム	佐藤玲奈チーム	保坂 一茂チーム	伊藤美幸チーム
3	2	1	順位	引揚救助9組出場
能代地区	能代地区	能代地区	消防本部名	氏名・チーム名
武田匡史チーム	三浦祐樹チーム	佐藤玲奈チーム	保坂 一茂チーム	伊藤美幸チーム



全国大会は八月二五日に、さいたま市で開催されます。



ロープブリッジ渡過



はしご登はん



引揚救助

第三十四回 消防救助技術秋田県大会

平成十七年六月二十八日秋田県消防長会主催による第三十四回消防救助技術秋田県大会が秋田県消防学校を会場に、①引き上げ救助②ロープブリッジ渡過③はしご登はん④ロープブリッジ救出⑤ロープ登はん⑥ほうふく救出⑦ロープ応用登はんが行われた。

七月十四日宮城県消防学校を会場に行われる東北大会への出場を目指して、県内十四消防本部の職員が日頃の練習成果を競われたが、緊張でいっばいの消防職員に、家族や職員の声援を受け、それぞれの種目に三九隊、二八八人の隊員が挑戦された。

様々な救助を想定した種目では、日ごろ鍛えた技術や体力、チームワークを競ったが、「はしご登はん」では、足を滑らす者、命綱の取付のおそい者。二十メートルのロープが建物間に張られ、負傷者のいる建物に向かい救出する「ロープブリッジ救出」では、応援していた者から自己チームの遅さに、「なさない・・・」と声を飛ばす者。十五メートルの高さまで上がる「ロープ登はん」では、あと2手でタッチラインに届くが速度が止まってしまい、声援を受け、かろうじてタッチセーフで拍手が沸き起ったり、又、途中で止まり、再度登り始めるが力つきで下降する者、手が伸びきって進まず下降する者。煙が充満した建物を想定して負傷者を助ける種目の「ほうふく救出」では、「よい」の前にくらつく者、救出後のロープが絡んでしまい、一生懸命落ちついて絡みを解く者、救出後のロープの輪がたるんでしまう者、こうしたアクシデントを克服しながらも好タイムで上位成績を納められた結果はつぎのとおりである。また、東北指導会出場選考会議で個人、団体チームに選考された方は、救助技術の力を遺憾なく発揮して下さることを願っている。

この頼もしい救助技術を持った個人、チームが県内の消防本部の職員として活動している。

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 協立
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52)6361
(52)6494

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般 秋田県代理店

株式会社 高義商会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種

〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒019-0504 十文字町本町 TEL(0182)(42)0032
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社タカギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ
トーハツポンプ
各種消防機械器具
消防設備保守点検

キンバイホース
シバラポンプ
各種消火器

地域の防災、災害対策に貢献!

消防 設備
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル7F FAX018 (824) 3651

平成十七年度 東北地区 消防連絡協議会 開催される



平成十七年七月十二日山形市の山形グランドホテルで東北六県と新潟県が参加する平成十七年度東北地区消防連絡協議会が開かれ中泉会長、奥山副会長、村井副会長、事務局職員が参加する。

消防協会長は「地震などの広域的な災害については各県が連携して対応していくことが大切である」また「がんばれ消防の意気込みを、災害・防災に負けない消防をめざしてほしい」とあいさつされた。続いて山形県知事あいさつは危機管理室長が代読された。市川昭男山形市長は「平成八年に山形市でフェーン現象もあり四十・八度と日本一熱い記録を残している。消防行政の重要性から地震対策として活断層調査を始めたほか、来年度から女性消防団員を採用することを検討している」とあいさつされた。

前年度の決議事項である「外国籍を有する者の消防団員採用について」は自治省としては公権力の行使又は公の意思形成の参画に携わる公務員には、日本国籍を必要とする見解が出されている。公権力以外で消防業務に協力しようとする外国人を消防団員に任用するときは市町村と協議の上、条例制定で認めることは可能であるとのことである。法的根拠としては、国家公務員法、地方公務員法には外国籍の公務員については名文規定を書いており、一九五三年の内閣法制局の見解が「公権力の行使と公の意思形成への参画には日本国籍が必要」とす



る見解を発表している。協議事項の一つとして「消防団詰所における日本放送協会との放送受信契約の取扱について」は各県の対応がまちまちであり、関係機関に要望することになった。

二つ目の「昼間の災害発生時の対応について」はOBの会、組織予備消防団による災害時のみの限定活動や市町村職員での対応等もあり、各市町村の実情により対応している。

最後に、「我が国の防災対策と消防」と題して日本消防協会の山口常務理事の講演が行われた。来年の開催県は宮城県と決まる。

能代市纏神社 例大祭で無火災を祈願!



能代市の纏(まとい)神社祭典が六月二十三日、二十四日の両日、多数の来賓を迎え盛大に開催された。

纏神社は昭和十四年、消防組が消防団に改組されて「まとい」が団旗に変わったのを契機に、古来から郷土能代を火災から守り、幾多の困難の道を歩んだ「まとい」を鎮火の神として祀ろうとして昭和十七年六月二十四日に社殿を建立し鎮座式を挙行、以後毎年六月二十四日を例祭日として祭祀を行っているものである。このような神社は全国的にも非常に珍

しく、能代市民の防火防災に対する意識の高さの現れでもある。

例祭は、長らく六月二十四日だけの祭典であったが、昭和五十四年からは前日の二十三日に宵祭りとして消防団員による奉納芸能大会も行われるようになり、今年で第二十七回をむかえた。



来賓として秋田県山本地域振興局長をはじめ、能代市長、同市議会議員などを迎え、消防職団員約四百名が参加して、自慢の歌や踊りを披露し、大いに会場をわかせた。

梅雨の真っ真中の開催にも関わらず過去二十六回の奉納芸能大会では、日頃の消防関係者の行いの良さを反映してか、一度も雨にたたられたこともなく、今年も午後からの晴天でこれを証明した。

また、二十四日の本祭りには消防関係者約六十名が出席し、纏神社講中代表の松谷消防副団長や米川消防長らが玉串を捧げ、心新たに能代市の無火災を祈願して二日に渡る例大祭を終了した。

秋田市支部 消防操法大会が行われた



平成十七年七月十七日秋田市中心中央卸売市場駐車場を会場に約二千人の団員、家族の応援のもと行われた。この度は青森県板柳町消防団の一行が視察に訪れ真剣に選手の間を見守りながら行われた。

はじめに、佐竹秋田市長は新生秋田市として誕生した消防団は十八分団から二十四分団に増えた初の大会であり、大会に向けて訓練された成果を遺憾なく発揮してほしい。



大会開始前に行なわれた選手団員の体操



青森県板柳町消防団視察



ポンプ車操法

ポンプ車操法には十分団が出場し、藤井班長を指揮者とする城東分団が一位に、二位には保戸野分団、三位には土崎分団がなった。

小型ポンプ操法には二十四分団が出場し、平成十七年一月十一日に合併された旧河辺町と旧雄和町が一位と二位を占め、鎌田班長を指揮者とする河辺第三分団が一位に、雄和第三分団が二位に、太平分団が三位になった。

訂正とお詫び

七月十五日発行の消防秋田P(4)「がんばれ消防応援団交流パーティー」に参加しての一段十三行目の「ペー」を「ペー」に、二段の後ろから三行目「所管」を「所感」に訂正し、お詫び致します。